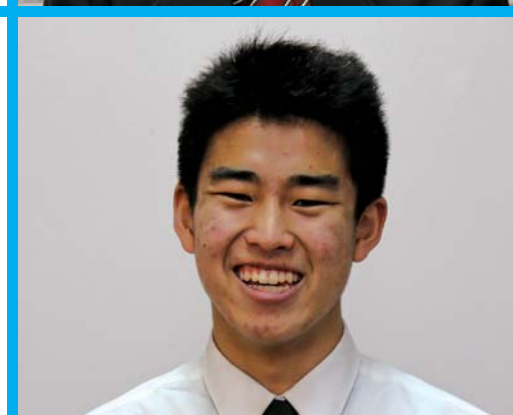
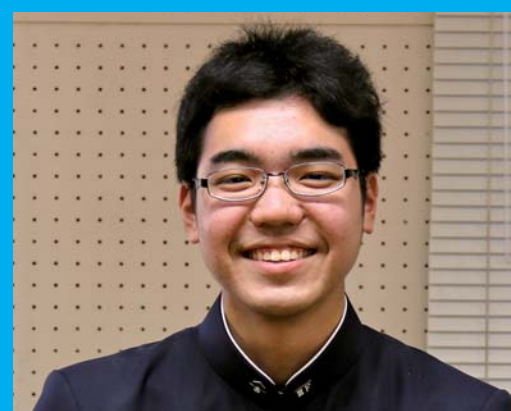




18歳からの選挙権

— ついに18歳のあなたも選挙に参加できる —

選挙権年齢を「20歳以上」から「18歳以上」に引き下げる改正公職選挙法が、平成27年6月17日に成立し、平成28年6月19日から施行されます。選挙権年齢の引き下げは、昭和20年の終戦直後に「25歳以上」から現行の「20歳以上」に変更されて以来、約70年ぶりとなります。

これに伴い、早ければ7月の「第24回参议院議員通常選挙」から適用されるようになり、高校生でも18歳以上の人には選挙権が与えられます。

10代が有権者に加わることで、世代間格差の是正や若年層の政治参加が促されると期待されています。

■お問い合わせ 平戸市選挙管理委員会事務局 ☎内線2371

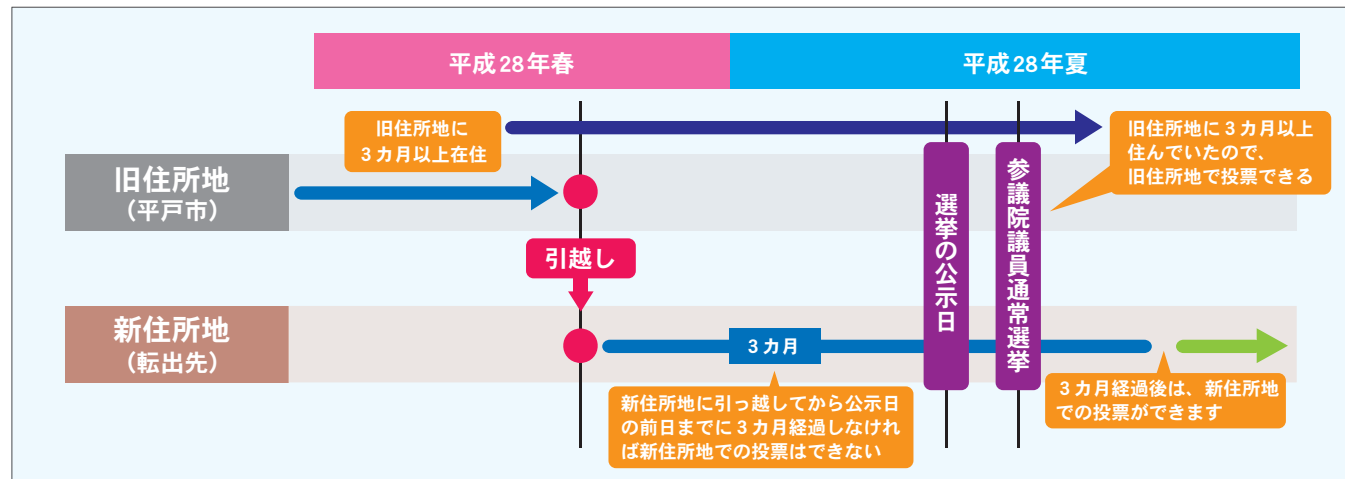
引越をしたら住民票を移そう

選挙で投票する場所は、原則として住民票のある市区町村であるため、就職や進学に伴い市外に引越する場合は、住民票の移動が必要になります。

新しく有権者となる18歳(投票日までに18歳に達する人)、19歳の人が今年の春に引っ越しても、新住所地で投票するには転入届を提出した日から、選挙の公示日(少なくとも投票日の17日前)前日までに、

3カ月以上住んでいる必要があります。

旧住所地で投票する場合は、投票日当日に旧住所地の投票所で、また、投票日前でも旧住所地の期日前投票所に行って投票することができます。投票に行けない場合も不在者投票ができるので、詳しくは平戸市選挙管理委員会事務局にお問い合わせください。



(総務省より)

世界では18歳以上が主流

世界191の国・地域のうち、167カ国が選挙権年齢を「18歳以上」と定めています。

また、ヨーロッパの国々を中心にさらに引き下げを進める動きがあり、オーストリアではすでに「16歳以上」への引き下げが行われています。また、ドイツやノルウェーなどでは、特定の州や地域で16歳以上への引き下げが行われています。

このように、ほとんどの国々が「18歳以上」で投票できるようになっています。

各国の選挙権年齢	
25歳	アラブ首長国連邦
21歳	オマーン、マレーシア、シンガポールなど
20歳	カメルーン、日本(18歳に引き下げ)など
19歳	韓国
18歳	アメリカ、イタリア、フランス、ロシアなど
17歳	東ティモールなど
16歳	アルゼンチン、オーストリア、ブラジルなど

【国立国会図書館(平成26年)の調査より】

を紹介します。

今回は、各国の状況や選挙の概要、高校生のインタビューなどを

人、平戸市でも約540人に新たに選挙権が与えられます。

7月の参議院議員通常選挙で、全国で18、19歳の約240万

選挙制度

変革する

インターネットを活用

平成25年のネット選挙運動解禁を受け、ホームページやブログ、SNS(ツイッターやフェイスブックなど)などのインターネットツールを利用した選挙運動もできます。しかし、18歳未満の人は選挙運動が禁止されており、同級生同士でのやりとりでも細心の注意が必要になってきます。

また、LINE(ライン)は良いが、電子メールでの選挙運動は禁止されているといった制約があるので、保護者の皆さんの監督も必要になってきます。

主なインターネットツール	
	電子メール(※) 電子メールは、不特定多数の人に一方的に送信できることから、悪用される心配があるため禁止されています。

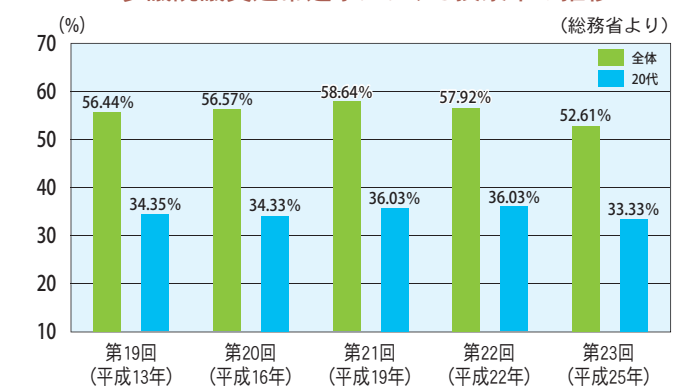
※候補者、政党などは電子メールを使つての選挙運動はできます。

10代の力を政治が求める

現在の日本は、少子高齢化、人口減少社会を迎えており、日本の将来を担う世代である10代の力を社会や政治が求めています。より早く選挙権を持つことで、10代の頃から社会の担い手であるという意識を芽生えさせ、政治に関わる若者が増えることが期待されています。

しかし、若者(20代)の投票率が他の世代より低いので、10代も含めた若者全体が投票にいくような施策が求められています。

参議院議員通常選挙における投票率の推移



平戸市選挙管理委員会事務局 次長 村瀬惣治

平戸市選挙管理委員会事務局担当者から

昨 年の11月から県教育委員会の協力を得て、全校生徒を対象として「公選法の改正」投票の仕方「選挙運動」についての説明会を行いました。説明会では、各校とも私語をすることなく熱心に聴いてくれて、18歳選挙権への関心の高さが伝わってきました。

全国的にもこの改正を機に、各地でフォーラムやシンポジウムが開催され、多数の若者が参加しており、関心は高いものと感じています。少子高齢化と言われて久しくなりましたが、絶対数が少ない若者の投票率が低いことで、若者向けの政策よりも中高年向けの政策が優先されてきた傾向にありました。18歳から30歳代の投票率が高くなれば、政策の方向転換が起きるのではないかと思います。



4月28日 北松農業高等学校での全校生徒への説明

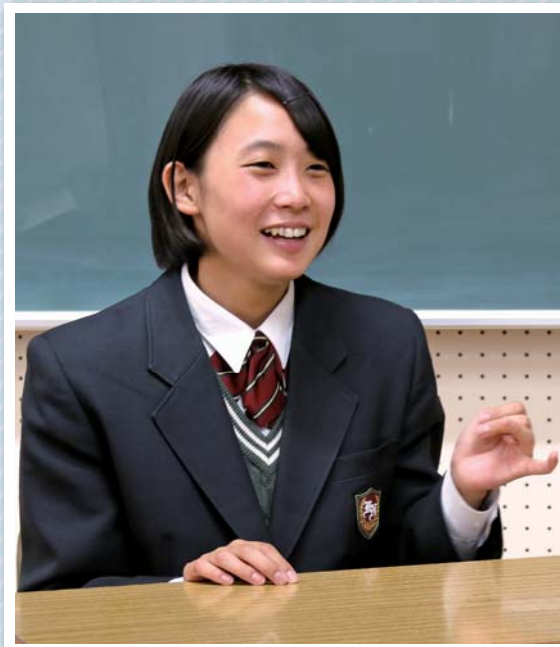
18歳が思う 選挙とは

現役高校生が語る 「私たちの1票」

早ければ、7月の「第24回参議院議員通常選挙」から始まる18歳選挙。

大人としての自覚と責任が求められる大切な1票について、今年18歳を迎える現役高校生は選挙についてどのような考えをもっているのか。

今回は、市内の高校に通う3人にインタビューしてきました。



北松農業高等学校
3年 藤澤眞沙美 さん

Interview

選 挙については、親や年配の人たちが行っているイメージでした。選挙権が18歳以上に引き下げられて、私も投票できるようになったので、7月の選挙には国民の1人としての責任を果たすために、投票に行こうと思っています。

しかし、同じ高校3年生でも投票できる人とそうでない人がいるので不公平だと思っています。また、高校生は選挙に関する興味や関心がない人も多いと思うので、今のうちに模擬選挙を行い、選挙のことをある程度理解し、高校卒業後の19歳から選挙権が与えられたほうが良いと考えています。テレビの国会中継で寝ている議員を見かけますが、責任感がないように感じます。しっかり国の将来のために考えて、私たちにもっとわかりやすく政治を伝えてほしいですね。



平戸高等学校
3年 久保沙織理 さん

Interview

正 直なところ、18歳といってもまだ子どももの私たちが、市や県、国の代表を選ぶ大事な選挙の投票に行っているのになんて思っています。選挙については、なんとなく堅いイメージがあったのですが、せっかく18歳以上に選挙権が引き下げられて投票する権利が与えられたので、7月にある選挙には行こうと思っています。私の周りにも誕生日によ

うて、選挙権が与えられていない人もいますが、与えられた人は積極的に投票に行ってもいいですね。私は、政治についてあまり関心はないのですが、若者の中でも政治に関心がある人もいると思うし、関心がない人も今回18歳以上に選挙権が引き下げられたことで、若者が政治に関心を持っていきたいですね。

Interview

今 回、18歳以上に選挙権が引き下げられたことで、私も7月の参議院議員通常選挙で投票することができるようになりました。親が投票に行っているのは知っていますが、いざ自分が投票すると思うとなかなか実感がわかりません。

政治に参加できる機会を得たので、私の1票で政治が変えられると思うと、今まで以上に社会の情勢や動向について勉強しないといけないと思っています。しかし、同じ学年の中でも誕生日によって投票できる人とできない人が出てくるので、生まれた月ではなくて、学年で一緒にしてもいいと思います。



猶興館高等学校
3年 高橋 巧 さん